

【音楽・中2・「情景を思い浮かべながら、言葉を大切にしながら歌おう」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (思考力、判断力、表現力等) 旋律、強弱を近くし、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (学びに向かう力、人間性等) 歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

ICT活用のポイント

前時に録音した演奏を聴いたり、楽譜上へ書き込みをしたりすることにより、思いや意図を表現するための技能の必要性に気付く。録音・再生により、表現を確認しながら思いや意図を深めていく。

【つかむ】

前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。

曲にふさわしい表現で歌うには、どのように歌えばよいのだろう。

【追究する】

- ①前時の録音を聴き、表現し切れていない部分に気付く。
- ②曲にふさわしい表現になるよう、歌唱練習

【まとめる】
振り返りをする。

事例の概要

○前時に録音した演奏を聴き返し、どのように歌うかについて思いや意図を再確認するとともに、さらによい表現で歌うためにどのようにしたらよいか必要感をもって技能の習得に取り組む。

【事例におけるICT活用の場面①】

○前時に思いや意図を書き込んだ楽譜を見ながら録音を聴き、思いや意図を表現できていない部分に印を付ける。画面共有をして自分の気づきを伝えるとともに、友達の気づきを取り入れ、表現方法について話し合う。

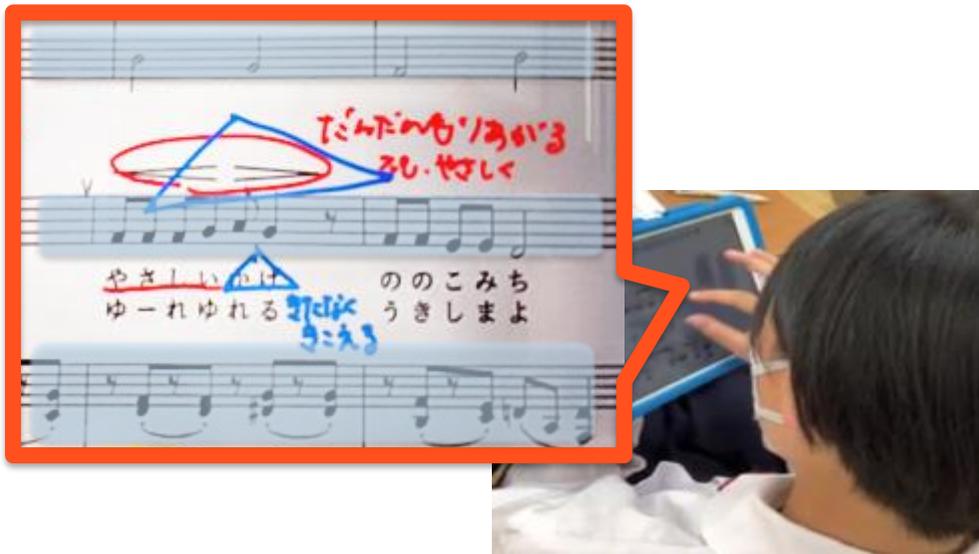
【事例におけるICT活用の場面②】

○よりよい表現で歌うことができるよう、録音・再生を繰り返すことによって表現方法を確かめる。

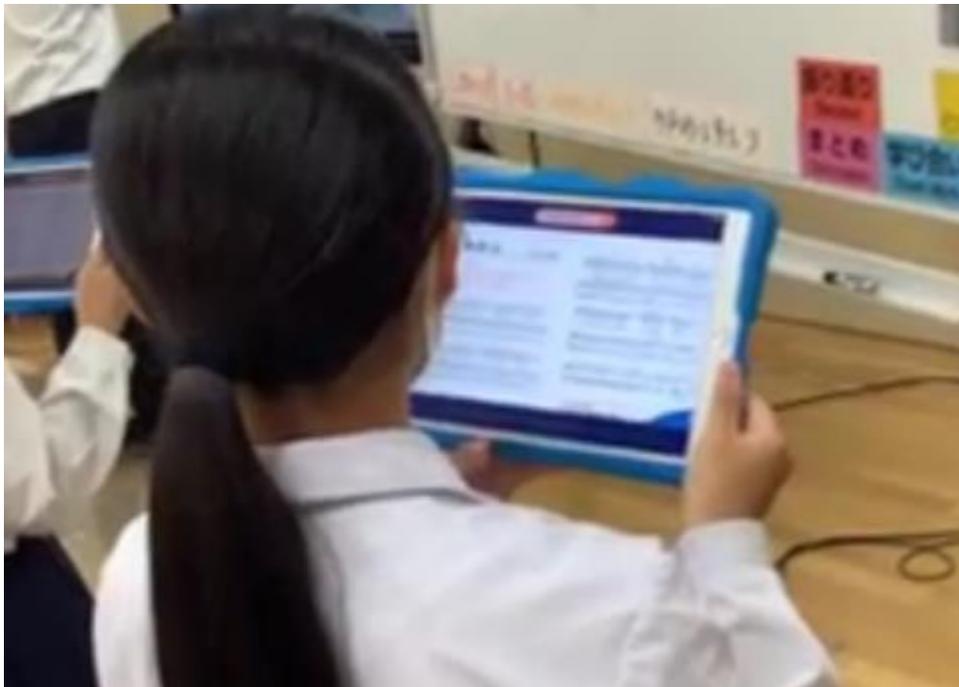
○本時の活動で得た技能により、曲にふさわしい表現で歌えたことについての振り返りを共有する。

【音楽・中2・「情景を思い浮かべながら、言葉を大切にしながら、言葉を大切にしながら歌おう」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【前時】ICT端末の学習支援ソフトに楽譜のシートを作成する。生徒は前時の学習で、歌詞や音符の動き、強弱記号など知覚したことを、曲の雰囲気など感受したことと結び付けながら、どのように歌いたいかについて思いや意図を楽譜に書き込んでいる(丸印)。



○前時に録音した演奏を聴き、思いや意図が表現できていない部分や気付いたことについて印を付けたり書き込みをしたりする(三角印)。そのことにより、よりよい表現を追求しながら、言葉の発声や発音などの技能の必要性に気付くことができる。

○本シートを画面共有することによってよりよい表現にするための気付きを話し合う。その際、伝えたい部分を拡大し、自分の思いや意図について焦点を絞って伝えることができる。

よりよい表現にするために話し合ったことを踏まえて歌唱練習を行う。自分の歌声を学習支援ソフトの録音機能により録音し、録音したものを聞くことによって、どのように歌うかについて話し合った思いや意図が、表現できているかを確認する。録音・再生を繰り返し、表現方法を試しながら工夫することで、言葉の発音や発声などの技能を習得するとともに、どのように歌いたいかについて、さらに思いや意図を膨らませることにつながる。

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト 録音・再生機能